

第7章 浦添市総合交通戦略策定後の展開方針

7-1 浦添市総合交通戦略の推進管理体制

7-1-1 浦添市総合交通戦略の進め方

総合交通戦略は、主に今後 10 年以内（平成 34 年度まで）に事業に着手するものを位置付け、施策を展開していく。戦略策定後は、浦添市交通基本計画推進協議会（仮称）を開催し、事業の進捗状況に基づき、必要に応じて総合交通戦略の見直しを行っていく。

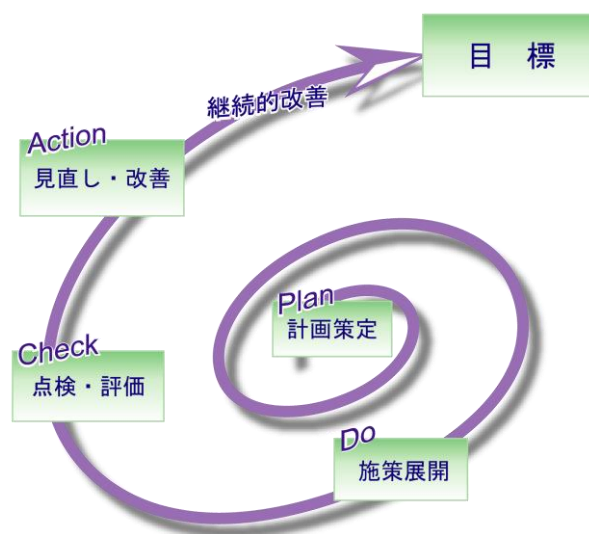


図 7-1 PDCA サイクルの概念図

7-1-2 総合交通戦略に基づく各施策実施後の評価（Check）の考え方

総合交通戦略の策定に際しては、浦添市における目標水準、並びに各地域の個別目標を設定した。これらの目標は、浦添市交通基本計画の目標水準（概ね 20 年後）をもとに、5～10 年後の短・中期を見据えた水準として設定しているものである。

各施策実施後の評価では、「公共交通機関の利用者数」や「道路交通に関する各種データ」等をもとに、定期的にモニタリングしていくこととする。また、個別施策の実施前後にアンケート調査等を実施し、地域のニーズや満足度を踏まえた上で評価を行っていく。

7-1-3 体制の考え方

浦添市交通基本計画の実現を目指し、施策の実施状況を継続的にマネジメントする検討組織として、浦添市交通基本計画推進協議会（仮称）を設置する。次年度以降は、策定した総合交通戦略を推進するにあたり、関係機関及び庁内の関係部署が検討実施する施策に関して施策の進捗状況の確認、情報交換を行う場として当協議会を位置づける。

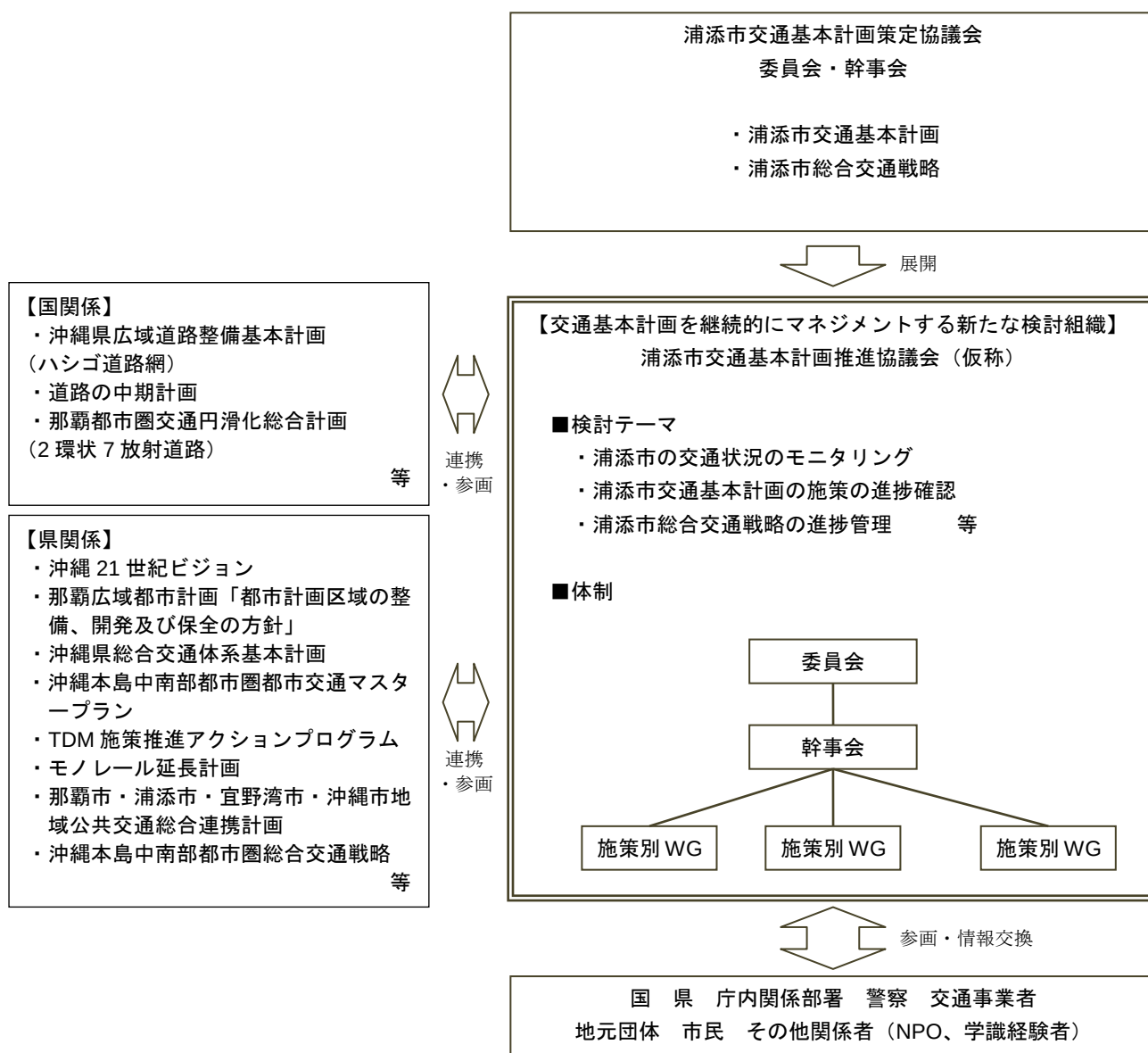


図 7-2 浦添市総合交通戦略策定後の施策推進管理体制

7-2 市民協働のまちづくりに向けて

7-2-1 施策実施に向けた手順のイメージ

浦添市交通基本計画で示した浦添市の将来像の実現に向け、浦添市総合交通戦略で示した各施策を推進していくためには、とりわけ市民の積極的な取組は必要不可欠な要因の一つである。交通関連の情報や関連資料の市民への発信や状況に応じたバックアップ体制等の構築を図ることが必要である。

具体的には、図 7-3 に示すように、前述の浦添市交通基本計画推進協議会（仮称）等において「施策の実施方針を検討」し、ワークショップ等の「施策の実施に向けた市民コミュニケーション」を通じて施策の方針に市民の意見を反映する。その際、交通シミュレーションやCG等を活用して、市民が分かりやすい工夫を行うことが必要である。市民の意見を踏まえて、「施策の詳細検討」を実施し、「社会実験の実施」もしくは、「施策の本格実施」に移行する。社会実験は新たな交通規制や物理的デバイスの導入の有効性を検証・評価し、本格実施の前に期間を限定して実験的に実施するもので、評価については専門的な指標に加えて市民目線の評価指標を加えることも検討する。本格実施の意向についても継続的に「施策の評価」を定期的の実施し、施策に関する問題や課題が生じる場合は、改善に向けた検討を実施する。「施策の継続・維持管理」についても市民の協力が必要不可欠であることから、行政と市民が一体となって取り組む体制についても今後、検討する。

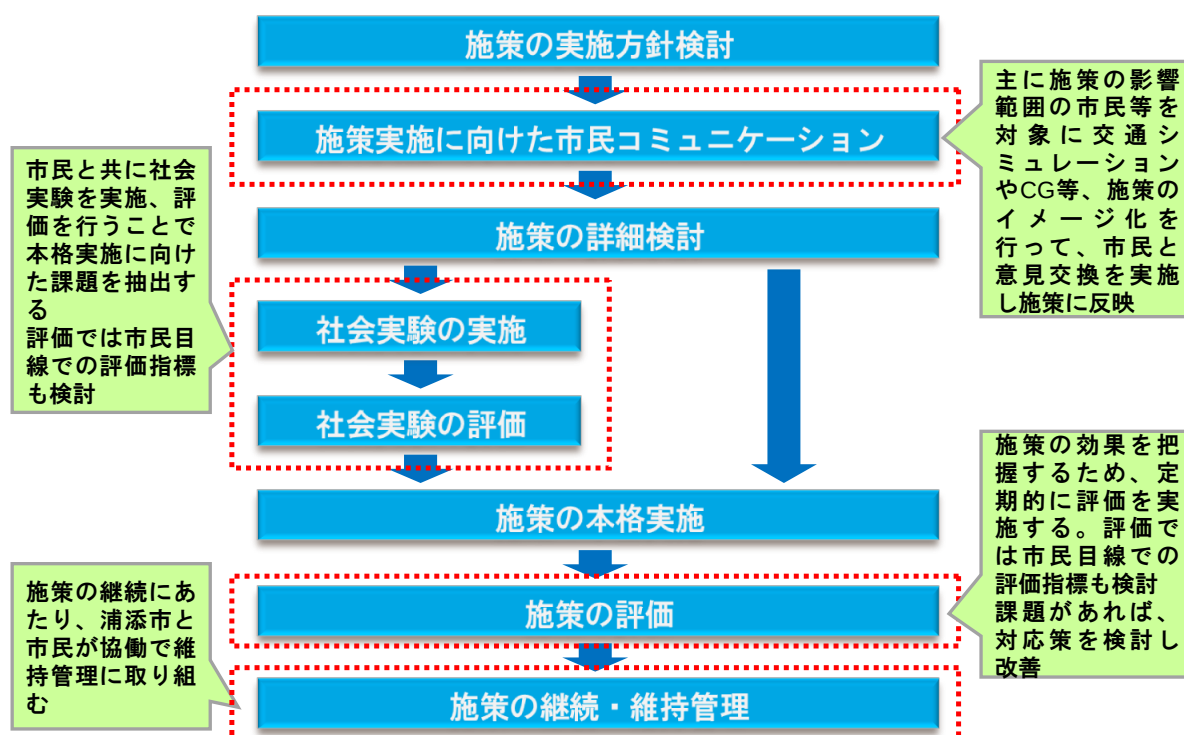


図 7-3 施策実施に向けた手順のイメージ

表 7-1 対策立案段階での市民コミュニケーション手法¹⁰

市民コミュニケーション手法	概要	計画案の作成	計画案の評価
委員会・協議会・懇親会等 (会議形式やワークショップ形式等)	市民、道路管理者、警察、関係機関、学識経験者、コンサルタントなどが継続的に議論していくことで、市民ニーズを十分に反映した対策立案の意思決定を行う。会議形式やワークショップ形式により、多様な立場の意見を参加者相互で話し合うことが重要である。	○	○
計画説明ツール (交通シミュレーション、CG、模型等)	計画案の内容や効果を具体的にイメージできる、分かりやすい計画説明ツール(交通シミュレーション、CG、模型等)によって参加者の理解を促進する。	○	
見学会 (先進事例視察)	行政担当者と市民代表者が一緒に先進事例等を視察することで、対策立案のための検討イメージを共有する。	○	
社会実験	新たな交通規制や物理的デバイスの導入の有効性を検証・評価するために、期間を限定して実験的に実施する。		○
立ち寄りブース	現地に計画案の内容や効果などを提示したブースを設置し、市民に気軽に立ち寄ってもらい、係員と対話することなどにより、市民の理解と行政との交流促進を図る。	○	○
アンケート調査 パブリックコメント	計画案の内容について、市民へのアンケート調査やパブリックコメント等によって評価する。	○	○
広報・説明 (ニュース、ホームページなど)	検討プロセスの情報提供、市民への参加機会の促進、計画案への意見募集。	○	○

7-2-2 維持管理に関する市民協働参画について

生活道路の維持管理は道路管理者（浦添市）に加えて、現地で普段、生活道路に接している市民が維持管理に関わることで生活者の視点からも十分な維持管理が可能となり、また効率的となる。

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民、事業主、地権者等による主体的な取り組みとして「エリアマネジメント」を今後、検討・実施する。

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上

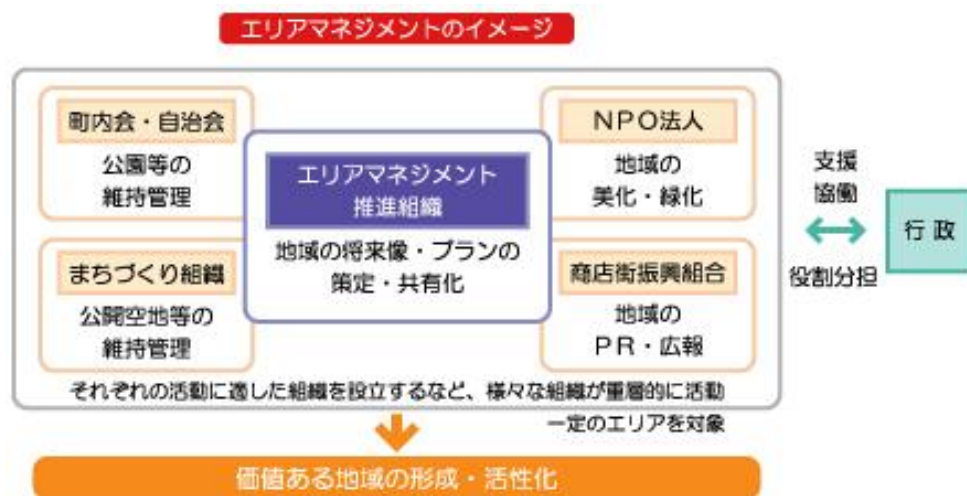
- ・安全・安心な地域づくり
- ・良好なコミュニティの形成
- ・地域の伝統・文化の継承
- ・快適で魅力に富む環境の創出や美しい街並みの形成
- ・資産価値の保全・増進等
- ・人を引き付けるブランド力の形成 等

¹⁰ 生活道路のゾーン対策マニュアル（交通工学研究会）

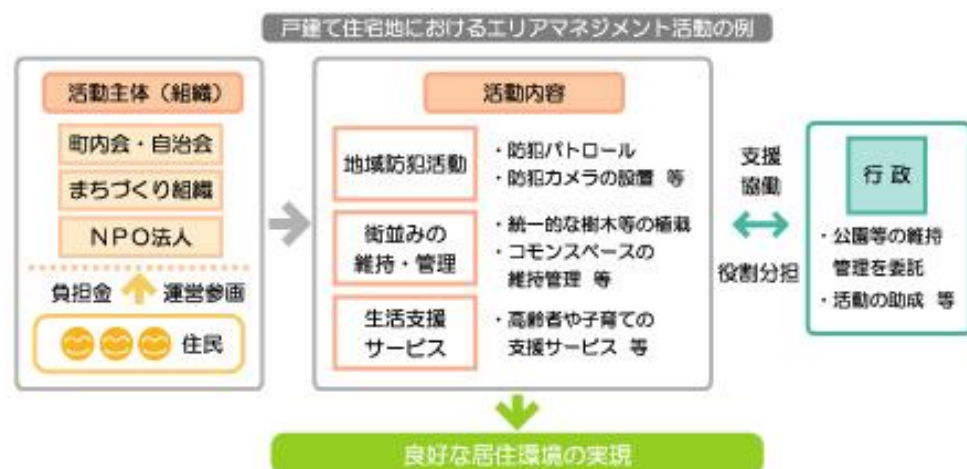
エリアマネジメントの定義¹¹

地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、
住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み

「良好な環境や地域の価値の維持・向上」には、快適で魅力に富む環境の創出や美しい街並みの形成、資産価値の保全・増進等に加えて、人をひきつけるブランド力の形成、安全・安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成、地域の伝統・文化の継承等、ソフトな領域のものも含まれます。



例えば、戸建て住宅地において、快適で魅力的な環境の創出、美しい街並みの形成、安全、安心な地域づくりなど、多彩なエリアマネジメント活動が展開されることにより、総合的な地域環境の質が高まることが期待できます。



¹¹ 国土交通省土地・水資源局 (http://tochi.mlit.go.jp/tocsei/areamanagement/web_contents/shien/index_01.html)

第8章 浦添市交通基本計画策定検討協議会

8-1 協議会の開催状況

平成 24 年度の協議会等の開催スケジュールを表 8-1 に示し、開催状況を図 8-3 に示す。本協議会規約は 8-2 に示しており、各会議の議事要旨を 8-3 に示す。

表 8-1 浦添市交通基本計画策定検討協議会の開催スケジュール

会議名	開催日	協議内容
第 4 回幹事会	平成 24 年 2 月 10 日	(1) 浦添市総合交通戦略について (2) 地域区分別の整備イメージについて (3) 市民ニーズ把握調査の実施方針について
第 4 回委員会	平成 24 年 2 月 20 日	(1) 浦添市総合交通戦略について (2) 地域区分別の整備イメージについて (3) 市民ニーズ把握調査の実施方針について
第 5 回幹事会	平成 24 年 12 月 21 日	(1) 地域区分の設定について (2) 地域別パッケージ施策の検討及び、整備計画スケジュールと事業主体の検討について
第 5 回委員会	平成 25 年 1 月 15 日	(1) 地域区分の設定について (2) 地域別パッケージ施策の検討及び、整備計画スケジュールと事業主体の検討について
第 6 回幹事会	平成 25 年 2 月 13 日	(1) 浦添市総合交通戦略（案）について
第 6 回委員会	平成 25 年 2 月 20 日	(1) 浦添市総合交通戦略（案）について



図 8-1 第4回幹事会（左）と第4回委員会（右）



図 8-2 第5回幹事会（左）と第5回委員会（右）



図 8-3 第6回幹事会（左）と第6回委員会（右）

8-2 協議会規約

浦添市交通基本計画策定検討協議会規約

(名称)

第1条 本会は、浦添市交通基本計画策定検討協議会（以下「協議会」という）と称する。

(目的)

第2条 平成18年度に実施された沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査等の最新のデータを踏まえ、浦添市の地域・交通特性を考慮した交通体系及び交通政策のあり方について検討を行い、本市の将来都市像と整合のとれた新たな交通基本計画の策定を目的とする。

(協議事項)

第3条 協議会は、次に掲げる事項について検討及び協議する。

(1) 交通基本計画の策定に関すること

- ア 浦添市の地域特性の把握について
- イ 上位・関連計画と開発動向の把握について
- ウ 浦添市の現況交通特性と課題について
- エ 交通体系の基本方針について
- オ 将来交通量予測、将来道路網の評価について
- カ 個別計画・施策について
- キ 浦添市交通基本計画（素案）の立案及び計画の策定について
- ク 市民ニーズの把握及び合意形成について
- ケ 計画策定後のフォローアップ等の手法について

(2) 総合交通戦略の策定に関すること

- ア 総合交通戦略の区域
- イ 総合交通戦略の目標
- ウ 目標達成に必要となる施策・事業
- エ 関係者の役割分担を踏まえた実施プログラム

(組織)

第4条 協議会は「委員会」、「幹事会」で組織し、その構成は別表第1、別表第2のとおりとする。
なお、行政職については、その者に異動があった場合は、後任者をもって充てるものとする。

(委員会)

第5条 委員会には委員長及び副委員長を置き、委員長に上間清琉球大学名誉教授、副委員長に神谷大介琉球大学助教をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、会務を統括する。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

- 4 所用により委員会に出席することができない委員は、代理の者を出席させることができる。ただし、学識経験者にあつては、代理の者を出席させることができない。
- 5 委員長が必要と認めるときには、委員以外の者に委員会への出席を求めることができる。
- 6 委員会は協議会の決定機関とする。

(幹事会)

第6条 幹事会には幹事長及び副幹事長を置き、幹事長は浦添市企画課長、副幹事長は浦添市道路課長とする。

- 2 幹事長は、幹事会を招集し、会務を統括する。
- 3 幹事長に事故があるときは、副幹事長がその職務を代行する。
- 4 所用により幹事会に出席することができない幹事は、代理の者を出席させることができる。
- 5 幹事長が必要と認めるときには、幹事以外の者に幹事会への出席を求めることができる。
- 6 幹事会は、委員会に付すべき事項についてあらかじめ審議し調整を図る。

(事務局)

第7条 協議会の事務局は、浦添市都市計画課に置く。

- 2 事務局は、協議会の運営に必要な事務を行う。
- 3 事務局は、必要に応じて関係者を招集した会議を開催することができる。

(設置期間)

第8条 協議会の設置期限は、施行の日より平成26年3月31日までとする。

(雑則)

第9条 この規約に定める他、協議会の運営に必要な事項は委員長で定める。

附 則

この規約は、平成23年1月31日から施行する。

附 則

この規約は、平成24年2月10日から施行する。

附 則

この規約は、平成24年12月21日から施行する。

別表 1（第 4 条関係）

浦添市交通基本計画検討協議会

委員会名簿

	所 属	職 名	氏 名	
			平成 23 年度	平成 24 年度
○	琉球大学	名 誉 教 授	上 間 清	上 間 清
□	琉球大学工学部環境建設工学科	助 教	神谷 大介	神谷 大介
	浦添商工会議所	専 務 理 事	浦 崎 勝	浦 崎 勝
	浦添市自治会長会	副 会 長	松 田 進	松 田 進
	沖縄都市モノレール株式会社	常務取締役	知念 健男	知念 健男
	沖縄県バス協会	専 務 理 事	中山 靖章	慶田 佳春
	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課	課 長	與那嶺 勉	與那嶺 勉
	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	課 長	照屋 正史	照屋 正史
	沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課	課 長	米 須 勇	米 須 勇
	沖縄総合事務局 運輸部 企画室	室 長	広瀬 行久	小野 協子
	沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	課 長	松 山 功	松 山 功
	沖縄県 浦添警察署 交通課	課 長	比嘉 正三	友利 元和
	沖縄県 企画部 交通政策課	課 長	下地 明和	玉城 恒美
	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	課 長	仲村 佳輝	仲 村 守
	沖縄県 土木建築部 道路街路課	課 長	末吉 幸満	末吉 幸満
	沖縄県 土木建築部 道路管理課	課 長	東 樹 開	東 樹 開
	浦添市 都市建設部	部 長	銘苅 秀盛	下地 節於
	浦添市 企画部	部 長	野口 広行	野口 広行
	浦添市 市民部	部 長	新 垣 浩	山 田 勉

○：委員長 □：副委員長

別表 2 (第 4 条関係)

浦添市交通基本計画検討協議会

幹事会名簿

	所 属	職 名	氏 名	
			平成 23 年度	平成 24 年度
○	浦添市 企画部 企画課	課 長	下地 節於※	宇 根 弘
	沖縄都市モノレール株式会社	業 務 部 長	川畑 雅一	川畑 雅一
	沖縄県バス協会	常 務 理 事	慶田 佳春	高江洲 誠
	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課	地方整備官	川 崎 聡	川 崎 聡
	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	道 路 計 画 調 整 官	堀 康 雄	堀 康 雄
	沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課	課 長 補 佐	仲間 文昭	仲間 文昭
	沖縄総合事務局 運輸部 企画室	室 長 補 佐	平良 公孝	宮里 正吉
	沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	課 長 補 佐	宮里 正吉	小谷 和史
	沖縄県 浦添警察署 交通課	企 画 規 制 係 長	具志堅 淳	具志堅 淳
	沖縄県 企画部 交通政策課 交通企画班	班 長	嘉 数 登	嘉 数 登
	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課 企画班	班 長	古 堅 孝	古 堅 孝
	沖縄県 土木建築部 道路街路課 企画調整班	班 長	赤 崎 勉	赤 崎 勉
	沖縄県 土木建築部 道路管理課 補修班	班 長	喜納 昌延	喜納 昌延
□	浦添市 都市建設部 道路課	課 長	饒 辺 稔	比嘉 育雄
	浦添市 市民部 市民生活課	課 長	伊徳 清包	大城 博郎

○：幹事長 □：副幹事長

※ 職名は「浦添市都市建設部参事」。平成 24 年度の人事異動に伴い廃止。

8-3 協議会の議事要旨

(1) 第4回幹事会

日時：平成24年2月10日（金）14：00～16：00

場所：浦添市役所 601 会議室

■資料2 浦添市総合交通戦略について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄県土木建築部 道路街路課	総合交通戦略への関わり方に関係するため、【資料2】P7に具体的なスケジュールを追加頂きたい。	ご指摘のとおり、フローの中に大まかなスケジュールを追加する。

■資料3 浦添市の現況と課題について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
（社）沖縄県 バス協会	【資料3】P2に示す広域交通結節点は、どの程度の規模を想定したものか？	各結節点の土地の制約等によるため、今後検討する。
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	- 市民に対して説明する際は、C&R等が分かるようなパース図等のイメージを追加した方良い。 【資料3】P8～9で提案した整備イメージは、各地域の施策に違いが見えにくいため、それぞれの地域の特徴を整理して、展開する施策と関連付けした方が良い。 「啓蒙」は「啓発」が適切な表現だと考える。	- WSの実施に向けて参考資料として作成する。 (施策ごとの紹介は第2回ワークショップにて写真等を活用して実施する) (ご指摘については、検討を進めるに当たって、既存データ、市民ニーズ把握調査等を活用して各地域の特徴を整理する。) (ご指摘のとおり修正する。)
浦添市企画部 跡地利用推進室	【資料3】P3の将来道路ネットワークが提案されているが、牧港補給基地跡地利用計画との整合を図っているのか？ - 車線数も標記したほうが良いのではないか。	- ご指摘については、整合を図ったうえで基本計画を策定している。 - 報告書本編で明示しているため、当該資料では明記しない方針である。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
下地幹事長	ワークショップの際には、配置されている都市拠点について、関連施設などを用いて位置付けている理由を整理した方が良い。	ワークショップの実施に向けて参考資料として作成する。 (第 2 回ワークショップ開催に際して、必要に応じて整理する)
沖縄県土木建築部 都市計画・モノレール課	【資料 3】 P2 でコミュニティバスが位置づけられていない理由は何か？	基本計画においては、具体的な機種やルートを定めたものではないが、P2 のオレンジの点線で示す箇所でコミュニティバスに相当する地域内の移動を支える機種を想定している。総合交通戦略の中では今後 10 年の間に取り組むべき内容として社会実験の実施等についても検討する。
(社) 沖縄県 バス協会	【資料 3】 P8 の西地域や北地域で具体的にコミュニティバスを位置づけてはどうか？	ご意見を参考にしながら、今後 10 年間で実施する施策の検討を行う。
沖縄総合事務局 運輸部陸上交通課	コミュニティバスとは、何らかの形で行政に関わるものだが、今後、具体的に社会実験等を予定しているのか？	ご指摘については、コミュニティバスとして明確に位置づけていないが、モノレール延長時期を目安に東地域や中央南地域等における駅を中心としたコミュニティバスの社会実験または路線バスの導入の検討を総合交通戦略の中で検討する。
下地幹事長	【資料 3】 P7 で経塚と前田においてモノレール延長ルートに一部オレンジの線（事業実施中）が見られるが、これは赤（整備済み）ではないか？	ご指摘のとおり修正する。
沖縄県土木建築部 都市計画・モノレール課	方針及び目標の設定について、地域をまたがる施策もあることから、各地域別だけではなく、市全体や一定地域を包括した設定が必要ではないか？	ご意見を参考にしながら、今後検討を進める。

(2) 第4回委員会

日時：平成24年2月20日（月）14：00～16：00

場所：浦添市役所 601 会議室

■資料3 浦添市総合交通戦略について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学名誉教授 上間委員長	【資料3】P1 に示されている「集約型都市構造の実現」と交通基本計画とは関係づけがなされているのか？	ご指摘について、集約型都市構造の実現を目指して、交通基本計画で施策展開を掲げており、総合交通戦略では施策の着実な推進を図りたいと考えている。
琉球大学工学部 助教 神谷委員	【資料3】P5 のコミュニティバスの社会実験後の状況について教えて頂きたい。 「市民ニーズ把握調査」の実施手順として、「第1回ワークショップ」で大まかなニーズを収集した後、そのニーズを踏まえて「市民ニーズ調査」を実施して、「第2回ワークショップ」を実施して施策のプライオリティを検討した方が良いのではないか？提案の方法は合意形成を目的とした方法であるため、再度検討頂きたい。	- 現在、通常の路線バスとしての運行に向けてバス事業者と調整中である。 - ご指摘を踏まえて、調査手順について検討する。 (市民ニーズ調査は、施策の方向性の確認が狙いであり、ワークショップは具体的な問題点を抽出することが狙いであるため、当初の提案通り市民ニーズ調査を先に実施した)

■資料 4 地域区分別の整備イメージについて

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
浦添自治 会長会	・ 【資料 4】牧港補給地区の具体的な返還時期は決まっているのか？	・ 具体的なスケジュール等は明らかになっていない。
浦添市 都市建設部	・ 【資料 4】P5 と P8 で示されている交通結節点に整合が図られていない。 ・ 【資料 4】P8 に示されている「地区内の交通環境改善」とは、具体的に何を行うのか？ ・ モノレール駅を交通結節点として位置づけて頂きたい。 ・ 夜間の交通環境の改善をねらいとした局部照明の設置など、これまで市民の要望によって整備を進めてきた施策についても総合交通戦略の中で位置付けて、道路管理者が活用しやすい計画として頂きたい。	・ ご指摘の P5 は長期計画における交通結節点を示しており、P8 は 10 年後を想定した交通結節点を示している。 ・ ご指摘については、「あんしん歩行エリア」と同様の取組を想定している。 ・ ご指摘の通り、モノレール駅が交通結節点の一つとして分かるように表現方法を修正する。 ・ ご指摘について、検討する。
(社) 沖縄県 バス協会	・ 【資料 4】P8 で西地域の主要関連計画・事業に「基幹バス」が位置づけられているが、臨港道路における基幹バスが計画されているのか？	・ 臨港道路には、基幹バスを想定していない。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄総合事務局 開発建設部 道路管理課	・ 【資料 4】 P8 に自転車に関する施策が 3 種類示されているが、これらの内容の違いは何か？	・ 「自転車走行空間の拡充」は、例えば牧港高架下におけるコミュニティサイクル・駐輪施設を中心とした走行空間の拡充を想定している。 ・ 「自転車走行環境整備」は、国道 58 号における自転車レーン等の整備を想定している。 ・ 「河川沿いを活用した自転車道」については、レクリエーションを重視した自転車道を想定している。
沖縄県企画部 交通政策課	・ 【資料 4】 P2 の「鉄軌道を含む新たな公共交通システム」は、市民に対して国道 58 号にルートが決まっているような印象を与えるため、ルートに幅を持たせた表現を行って頂きたい。 ・ 注釈のイメージをより強調して頂きたい。	・ 総合交通戦略の策定に向けて、市民に誤った印象を与えないように表現方法を工夫する。
沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	・ 【資料 4】 P8 の「あんしん歩行エリア」は、今後、市全域に広げる予定はあるのか？	・ 「あんしん歩行エリア」の指定については指定条件が定められているが、関係機関と調整を進めながら、「あんしん歩行エリア」もしくは同様の施策の展開を検討したい。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学工学部 助教 神谷委員	・ 【資料 4】 P8 の地域別施策展開イメージは、P1 の各種施策群と同じとして理解して良いか？ ・ 地域間にまたがる施策と地域内で展開する施策が混在しているため、分かりにくい。 ・ 提案された地域区分では、交通結節点が地域の境界線上にあり、交通結節点に期待する役割が見えにくい。そのため、交通結節点が地域に果たす機能を中心に考えて地域区分を設定する方が良いのではないか？ ・ P8 の図内に交通結節点がないにも関わらず、地域別の施策展開イメージの中で「交通結節機能の充実」とあるため、整合を図って頂きたい。	・ 施策展開イメージは、道路ネットワーク整備や公共交通ネットワーク整備、交通結節点整備といったハード整備とモビリティマネジメント等のソフト施策をパッケージで展開するイメージを想定している。 ・ 地域区分は上位計画である「浦添市都市マスタープラン」に整合を図って決めているが、総合交通戦略の策定に向けては、ご指摘を踏まえて検討したい。 （ご意見を参考に、基幹事業を軸にエリアを設定し、施策の検討を行っている）
琉球大学名誉教授 上間委員長	・ 地域間の施策と地域内の施策が混在している点は分かりにくいので、地域区分と施策展開の考え方を整理した上で各地域の施策展開を整理する等、資料構成について工夫頂きたい。	・ ご指摘の通り、整理の方法については検討する。 （ご意見を参考に、基幹事業を軸にエリアを設定し、施策の検討を行っている）
琉球大学名誉教授 上間委員長	・ 【資料 4】 P8 の施策展開イメージにある施策は、主要関連計画・事業に関連する施策として理解するのか？ ・ 主要関連計画・事業を事業主体別に整理した方が良いのではないのか？	・ ご指摘の通りである。 ・ 整理の方法については検討し、第 5 回の協議会で提案したい。 （各事業が横断的に関連するため、事業主体別の分類は行っていない）

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
浦添市都市建設部	浦添市の最上位計画である「浦添市総合計画」では、第２次総合計画で地域区分が細かいという理由から廃止された経緯があり、現行の総合計画でも踏襲されている。そのため、交通結節点を中心とした地域区分等について検討した方が良いのではないか？	現行の都市マスタープランと整合を図っているため、現在の地域区分を踏襲している。 (ご意見を参考に、基幹事業を軸にエリアを設定し、施策の検討を行っている)

■資料５ 市民ニーズ把握調査の実施方針について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
浦添市自治会長会	市民ニーズ調査は全世帯に配布し、9,000票を回収目標とするのか？	ご指摘の通りである。

(3) 第 5 回幹事会

日時：平成 24 年 12 月 21 日（金）14：00 ～ 16：00

場所：浦添市役所 601 会議室

■資料 3 浦添市総合交通戦略について

■資料 4 地域区分の設定について

■資料 5 地域別パッケージ施策について

■資料 6 地域別恩関連施策事業計画について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄総合 事務局 開発建設部 道路建設課	【資料 3】P16 の文言表現について、検討頂きたい。	ご指摘については、修正を行う。
(社) 沖縄県 バス協会	【資料 5】P6 の「通勤手当の改善（公共交通の優遇等）」について、具体的な方法を検討しているのか、教えて頂きたい。定期券申請の際に年度明けに購入し、払い戻しの実態もある。	
沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	【資料 4】P2 の都市軸（シンボル軸）の考え方について教えて頂きたい。サンパーク通りは、都市軸に位置付けられていないが、ハシゴ道路の一部として幹線道路網を形成している道路である。	都市軸は周辺の沿線も含めた都市的な役割を指しており、必ずしも 4 車線の幹線として考えているわけではない。サンパーク通りはハシゴ道路の幹線として位置付けている。
沖縄県 土木建築部 道路街路課	【資料 5】P5 のパイプラインにおける「路外荷捌き」のイメージについて教えて頂きたい。 - 交通結節点の名称が複数あるため、分かりにくい。 - パイプラインの自転車走行環境の確保のイメージを教えて頂きたい。	- 沿道商業施設の路上駐車への対応として、民間施設や路外駐車場を活用した短時間の駐車スペースの創出をイメージしている。 - 資料内では各結節点の機能を踏まえ、使い分けをしているが、分かりにくさについては、修正する。 - 検討課題ではあるが、沖縄総合事務局、沖縄県と連携して環境整備方法を検討していきたい。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	・ 【資料 5】 P12 にも第 4 駅周辺の駅と一体となったまちづくりを明示して頂きたい。 ・ 都心交通結節点について教えて頂きたい。	・ ご指摘については修正する。 ・ 具体的には、一つの結節点ではなく、大平交差点周辺の実態を一体的に捉えて整備するイメージで、歩道整備や自転車の駐輪施設の整備等、近隣からのアクセス性の向上を図る。
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	・ 【資料 5】 P9 の「安謝高架下」は間違いではないか。 ・ 【資料 5】 P9 浦添商業の交通実態が合わない。 ・ モビリティマネジメントについては、交通安全等、市民のメリットも強調すべきである。 ・ 【資料 5】 P9 のゾーン対策のイメージを適切な写真に変更して頂きたい。	・ ご指摘については修正する。 ・ 施策の実施にあたっては、交通実態データ等を用いて詳細検討を行う。 ・ ご指摘については修正する。
沖縄県 土木建築部 道路街路課	・ 【資料 5】 P7 サンパーク通りと国道 58 号に交通結節点が示されているが、P9 では示されていない。 ・ 【資料 3】渋滞の交差点の具体的な場所が見えてこない。 ・ パイプラインの渋滞対策、渋滞交差点の改良整備も考えられるので位置づけたほうが良いのでは。	・ ご指摘については整合を図るよう修正する。 ・ ご指摘の具体的な渋滞交差点については整理をしていないが、沖縄総合事務局が中心となる渋滞対策協議会での検討結果と整合を今後図りたい。
沖縄県企画部 交通政策課	・ 【資料 5】 P7 の重点施策は、エリア別ではなく、全域で取り組むべき重点施策も取り上げられるのではないか。	・ ご指摘のとおりであり、検討する。
（社）沖縄県 バス協会	・ 【資料 5】 P6 のインセンティブの付与、公共交通はすでに実施している。	・ ご指摘については、市の施設での割引等を想定している。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
下地幹事長	・ 国道 58 号の交通結節点について、ここだけ基幹バスが止まるのか。 ・ 国道 330 号と沢岷石嶺線の結節点については立体交差で左折のみか。信号交差として捉えた場合、交通結節点の位置づけも可能ではないか。	・ 基幹バスは既存のバス停でも停車する。 ・ 当面は立体交差であることから、当戦略では国道 330 号での結節点を位置づけていない。ただし、将来的な道路の整備状況や需要動向に応じて検討することは可能であると考えている。

(4) 第 5 回委員会

日時：平成 25 年 1 月 15 日（火）14：00 ～ 16：00

場所：浦添市役所 9 階 講堂

■資料 3 浦添市総合交通戦略について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄県 土木建築部 道路街路課	- 調査結果で問 3～問 5 が抜けている理由を教えてください。 【資料 3】p17 の牧港補給基地の面開発について整理していないのは何故か教えてください。	- 属性項目であることから、資料では省略して説明している。 - 基地跡地の計画を今年度策定する予定であり、策定内容等を本計画に反映する内容があれば反映したい。
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	【資料 3】p3 のフロー内の策定年度は、平成 24 年度の誤りか。	ご指摘の通りであり、修正する。

■資料 4 地域区分の設定について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学名誉教授 上間委員長	- 前回説明時の地域区分の違いをご説明頂きたい。 - 今回提案の 4 つの縦断エリアと、それらを横断する 1 つのエリアが特徴的である。	前は、都市マスタープランの地域区分を踏襲していたが、前回委員会でのご指摘を参考に基幹事業を中心に地域区分を設定している。
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	【資料 4】p2 の入っていないエリア（空白部）はないようにした方が良い。	ご指摘の通り、修正する。
沖縄県 土木建築部 道路街路課	生活軸の位置づけを踏襲するのか？こだわる必要はあるのか？	パイプライン沿線の商業形態と合わせた位置づけを考えている。（パイプラインについては、歩行者・自転車の利用実態も他の路線に比べ多く、沿道商業施設も市民生活に密着した商業形態が多いことから、将来的な集約型都市構造の観点から生活軸として強調して位置づけている）

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学名誉教授 上間委員長	浦添西原線沿線エリアについて、市域を横断するように設定した背景、意味を強調したほうが良いのではないか。	- 西の基幹バス、東の都市モノレール延長を横断的に連携するイメージを考えている - 横断エリアを設定する必要性も含め整理する。

■資料 5 地域別パッケージ施策について

■資料 6 地域別関連施策事業計画について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学名誉教授 上間委員長	【資料 5】p8 以降の重点施策のスケジュールの見方についての説明頂きたい。（矢印の意味等）	資料 6 を用いて、説明した。
沖縄県企画部 交通政策課	【資料 5】p8 の基幹バス導入について、昨年度策定済みであることから実施（黒実線）ではないか。	関係機関との調整の結果、このように設定している。
沖縄県 土木建築部 道路街路課	【資料 5】p8 立体高架下の駐輪施設整備の位置づけ 10 年もかかるのか。 - モビリティマネジメントは実施したら終わりではなく、継続ではないのか。	- 関係機関と調整の上の表現としており、再度調整したい。 - 浦添市では、来年度牧港立体、安謝立体を活用した自転車に関する具体的な検討を行う予定である。 - スケジュールの継続の表現には、実施した後のソフト施策の継続を含めていない。
沖縄都市モノレール（株）	パンフレットに記載の交通結節点の機能と戦略における結節点の機能に相違があるのでは。	パンフレットに記載の機能は包括している。
沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	- 高速バスとの連結、学校モビリティマネジメントは重点的に連携していきたい。 - モノレール延長エリアには浦添市役所も入れて頂きたい。 - P&R の事業も表示頂きたい。	- ご指摘については修正する。 - ご指摘については修正する。
琉球大学名誉教授 上間委員長	- 第 4 駅の交通結節点については具体的に戦略で明示した方が良いのではないか。 - 市域を超えた影響（国道 58 号、浦西線、モノレール延長）も言及したほうが良いのではないか。	（ご指摘については、位置付けている） （ご指摘については、基幹事業として位置付けている）

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学工学部 助教 神谷委員	・ ワークショップやアンケート等の結果をどのように反映したのかを整理して頂きたい。 ・ 浦西エリアの重点施策の中に、基幹バスとモノレール延長をつなぐ施策・イメージを明記する必要があるのでは。 ・ モビリティマネジメントについて、エリア別の重点施策だけではなく、市全体の施策として考えるのではないか。初期段階ではモデル校を選定して重点的にやることも考えられる。 ・ 市全域のソフト施策について、道路維持管理、駐停車、生活ゾーン対策などに対応するオプション、意思決定の案・イメージも明記して、市民が検討過程（手続き）に関わることの意義等を示して頂きたい。	・ ご指摘について対応する。 ・ ご指摘について修正する。 ・ ご指摘について修正する。 ・ ご指摘については対応する。
琉球大学名誉教授 上間委員長	・ 次回は、今回の意見を踏まえ、戦略の策定となる。1週間ぐらい前に配布して、各委員には事前に確認頂きたい。	・ ご指摘については対応する。

(5) 第 6 回幹事会

日時：平成 25 年 2 月 13 日（水）10：00 ～ 11：30

場所：浦添市役所 9 階 講堂

■資料 2 浦添市総合交通戦略（案）について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	・ 【資料 2】P54 の環境の目標について、自動車自体の環境負荷が小さくなっている中で、自動車の分担率を 62.4%まで削減するという目標値は、適切ではないのではないかと？ ・ 【資料 2】P61 でモノレールの利用者数の予測値である 0.9 万人/日を目標としているが、目標はより高い数値の方が望ましいのではないかと？	・ ご指摘のとおり、環境負荷の小さいエコカーは普及しつつあるが、当面は自動車の分担率を下げる方が効果的であると考えているため、このような目標値を設定している。 ・ ご指摘については、より高い目標を目指すよう表現方法を検討する。
沖縄県 土木建築部 道路街路課	・ 【資料 2】P55 の環境の目標値は現在の人口に対する目標値か、それとも将来の人口に対する目標値か？ ・ 浦添市全体の目標に対して各地域における目標別の取組が分かりにくい。 ・ 総合交通戦略はより具体的な取組や目標値を記載する方が望ましい。	・ 将来人口に対する利用率を目標としている。 ・ 地域別に具体的な目標値を計測することが難しいため、浦添市全体の目標値として表現し、目標に向けての各地域の具体施策は、第 5 ～6 章で整理している。 ・ 各地域の目標が浦添市全体の目標とどのように関連しているのか、整理する。
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	・ 【資料 2】P53 の浦添市交通基本計画の活力の目標に「公共交通利用率を 10%まで増加させることを目指す」とあるが、P56 には公共交通の利用率の目標は設定されていない為、整合が図れていない。	・ ご指摘について、環境と同じ値を目標値に設定する。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄県 土木建築部 道路街路課	・ 【資料 2】 P121 の評価の考え方について、浦添市全体の目標値に対する評価となるのか？それとも各施策の実施による効果がそれぞれの目標値に与える影響を定量的に把握するのか？	・ 環境、活力、安心の関する目標値の評価は、浦添市全体での評価を定期的に行う。また、各施策の効果を把握するために各施策に応じた評価方法については、P122 に示す推進体制において検討する。 ・ 各施策の実施による目標に対する影響は把握が難しい。
沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	・ 【資料 2】 P85 の総合交通結節点（（仮）浦西駅）の結節機能を図で分かるように示して頂きたい。 ・ 【資料 2】 P60 で基幹バスまでの自転車によるアクセス向上とあるが、具体的な内容教えて頂きたい。 ・ 【資料 2】 P61 に示している生活道路のゾーン対策は、浦添市全域で実施する方が望ましいと考える。	・ ご指摘については、図で分かるように修正する。 ・ 沖縄総合事務局が検討している那覇都市圏自転車ネットワークと連携しながら、市道においても自転車ネットワークの整備を検討する。 ・ ご指摘のとおり、生活道路のゾーン対策を浦添市全域で実施したいと考えており、P75 で提案している。
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	・ 【資料 2】 P122 で示している推進体制において、浦添市の庁内における関係部署間の連携が具体的に示されていない。	・ 主に都市計画課が中心となって進めるが、例えば自転車ネットワークに関しては、環境施策推進室、商工産業課、道路課と連携して進める予定である。他に福祉関係部局との連携も考えられる。
（社）沖縄県 バス協会	・ 【資料 2】 P87 でイベント時における交通マネジメント（仮）とあるが、さまざまなイベント告知で公共交通の案内がされていない場合があるため、浦添市でのイベント開催では是非、自動車でのアクセス方法以外にも公共交通によるアクセス方法も案内して頂きたい。	・ ご指摘を参考にする。

(6) 第 6 回委員会

日時：平成 25 年 2 月 20 日（水）10：00 ～ 11：30

場所：浦添市役所 601 会議室

■資料 2 浦添市総合交通戦略（案）について

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
浦添市自治会長会	・ 素人は図面を見ても分からない為、地域におりて説明を行って頂きたい。 ・ 軽自動車の保管場所の届出義務を実施する前に駐車場整備を実施して頂きたい。	・ 今後、モビリティマネジメントやシンポジウム等で地域の人々に分かりやすい方法で説明する。 ・ 今後の情勢は不透明だが、届出義務化される事になれば、行政として対応可能なことは検討する。
沖縄県企画部 交通政策課	・ 【資料 2】P77 の「鉄軌道導入は、内閣府が検討しているところである。」について、県でも検討している旨を加筆頂きたい。	・ ご指摘の通り修正する。
沖縄総合事務局 運輸部企画室	・ 【資料 2】P98 の環境の目標については、平成 31 年度にモノレールが延長されるため、公共交通利用率に関する平成 35 年の目標値を平成 42 年までのトレンドではなく、より高い値に設定する必要があるのではないかな？	・ 平成 42 年の目標値が既に高い水準に設定しており、トレンドで設定しても高めの設定となっていると考えている。 ・ 将来的には、道路整備状況や公共交通の導入状況を考慮して見直していきたい。
琉球大学名誉教授 上間委員長	・ 浦添市全体の平成 42 年の環境に関する「公共交通利用率を 10%まで増加させる」の目標値は、本島中南部都市圏の目標と同じかな？	・ ご指摘の通りである。
(社) 沖縄県バス協会	・ 【資料 2】P85 と P131 で示されている支線公共交通のルートに整合が図られていないため、整合を図って頂きたい。 ・ 沖縄県の計画では、(仮) 前田駅の交通広場は浦添西原線の南側に整備されるため、国際センター線を通るルートでは両側運行が出来ない。(国際センター方面からくるバスは交通広場に入れないため。)	・ ご指摘については、整合を図るよう修正する。 ・ 沖縄県の計画に加えて、今回の戦略では支線公共交通拠点として (仮) 前田駅北側に交通広場の整備を考えており、国際センター方面からも利用できるような配置を検討する。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	・ 【資料 2】 P108 の本文で示している渋滞ポイントの 9 箇所が分かりにくい。 ・ 今後、渋滞協議会で検討する対策と整合を図って頂きたい。	・ ご指摘の 9 ヶ所とは、国道 58 号の牧港～勢理客までのポイントを示している。 ・ ご指摘の通り整合を図る。
沖縄県企画部 交通政策課	・ 【資料 2】 P168 で示している、浦添市交通基本計画推進協議会の大まかなスケジュールと庁内の検討組織である事を図中に示した方が良い。	・ ご指摘について、具体的な開催スケジュールは決まっていなかったため、記載をしにくいですが、年に 2～3 回の開催になると想定している。
琉球大学工学部 神谷助教	・ 【資料 2】 P102 で安心に関する目標を掲げており、ワークショップでの意見についても交通安全に関する意見が多いため、交通マナーの向上に関するソフト施策を記載して頂きたい。 ・ 【資料 2】 P101 で示されている自動車の保有状況で自動車を持っていない人は、高齢者が多いのか？ ・ 救急隊の現場到着時間等は平均値で整理されているが、ピーク時等の遅れが問題となると考えるため、時間帯別等のより詳細なデータは把握されているのか？	・ ご指摘については、P123 に追加する。 ・ クロス集計を行っていないため、把握していない。 ・ 統計データであるため、時間帯別の所要時間等の細かな数値については把握していない。
琉球大学名誉教授 上間委員長	・ 評価方法については具体的に記載しているのか？ ・ 道路交通センサスは概ね 5 年ごとに調査をしているため、検証データとしては十分有用となることが考えられる。	・ 基本的には PT データ等の既存統計データを活用することを想定しているが、評価時に具体的に検討する。 ・ ご指摘の通りであるため、記載する。
沖縄県企画部 交通政策課	・ 【資料 2】 P104 にノンステップバスの導入も追加して頂きたい。	・ ご指摘については追加する。
沖縄総合事務局 運輸部陸上交通課	・ 【資料 2】 P104 の「…通過交通を可能な限り流入させない…」とあるが、表現方法を工夫頂きたい。	・ ご指摘については修正する。

発言者	主な指摘・意見	回答（対策方針等）
琉球大学名誉教授 上間委員長	各委員からのご指摘の修正は、委員長と事務局で確認することで良いか？	（委員） 異議なし